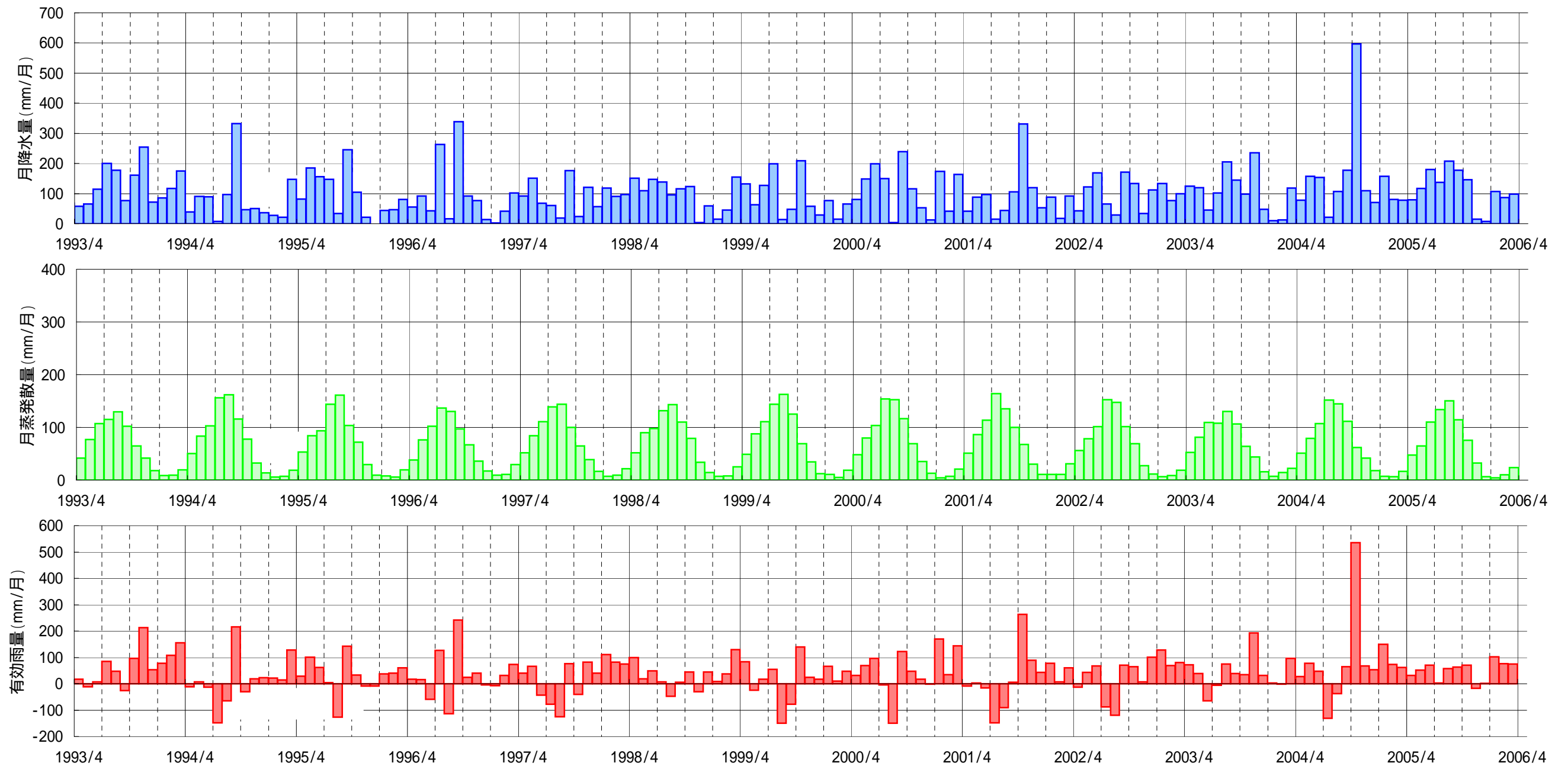


図3.4.2 降水量(月単位)、観測点：神栖市役所



(単位: mm/月)

	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
4月	58.5	39	81.5	56.0	92.0	151.0	132.5	80.0	42.0	43.0	124.5	78.0	79.0
5月	65.5	91	185.0	92.0	150.5	109.0	63.0	149.0	88.5	121.5	120.0	157.0	116.5
6月	114.5	89.5	155.5	42.5	68.5	147.0	127.5	199.5	97.0	168.5	45.0	154.0	180.5
7月	200	8.0	147.5	263.5	60.5	138.0	198.5	150.0	15.5	65.0	102.0	21.0	137.0
8月	177	97.0	34.5	16.5	18.5	96.0	14.0	3.5	44.5	28.5	205.0	107.0	207.5
9月	76.5	332.5	246.0	338.5	176.0	115.5	47.5	239.0	105.5	171.5	144.5	177.0	177.5
10月	161.5	47.0	105.0	91.5	24.5	124.0	209.0	116.0	330.5	133.5	98.5	597.0	145.5
11月	254.5	50.5	21.0	76.5	121.0	3.5	58.5	52.5	119.5	34.5	236.0	109.0	15.5
12月	72	36.0	0.5	13.5	56.5	59.0	29.0	12.5	53.5	112.0	48.0	71.0	8.0
1月	85.5	28.0	44.5	2.0	118.5	15.5	77.0	173.5	88.0	134.0	10.5	157.5	106.5
2月	117.5	21.0	46.5	42.0	90.5	45.0	14.5	41.5	17.5	77.0	13.0	80	87
3月	175.5	147.0	80.0	102.5	97.0	154.5	66.0	164.0	92.0	99.0	118.5	78.5	98.2
年間	1558.5	986.5	1147.5	1137.0	1074.0	1158.0	1037.0	1381.0	1094.0	1188.0	1265.5	1787.0	1358.7

### 3.5 揚水条件

解析範囲内に位置する企業局の揚水井戸については、揚水実績値に基づき、モデルに反映させた。揚水量の変動は月単位とした（図 3.5.1）。

これらの企業局揚水井戸の内、B 地区周辺にある 5 号井戸、10 号井戸は、平成 15 年 9 月に井戸水から DPAA が確認されたため、以後運転を休止している。

また、B 地区の南南西約 500m にある 9 号井戸も、DPAA の汚染は確認されていないものの、平成 16 年 8 月以降、運転を休止しているため、これらについても考慮した。

### 3.6 DPAA 溶出量の設定

コンクリート様の塊の直下砂礫層における DPAA 溶出濃度および位置については、A 井戸詳細地下水シミュレーションから得られた濃度をもとに、図 3.6.1、図 3.6.2 のように設定した。

A 井戸詳細地下水汚染シミュレーションでは、平成 8 年頃、DPAA が砂礫層に到達し、平成 9 年 4 月には DPAA 濃度が 186mg/L（ヒ素換算値）とピークになり、その後徐々に濃度が減少していく結果が得られている。

このため、AB 広域シミュレーションにおける汚染源の濃度については、A 井戸詳細地下水汚染シミュレーションの結果をモデル化し、平成 8 年以後は時間とともに汚染源濃度が変動し、最大値は平成 9 年 4 月の 200 mg/L（ヒ素換算値）となる条件とした（図 3.6.1）。

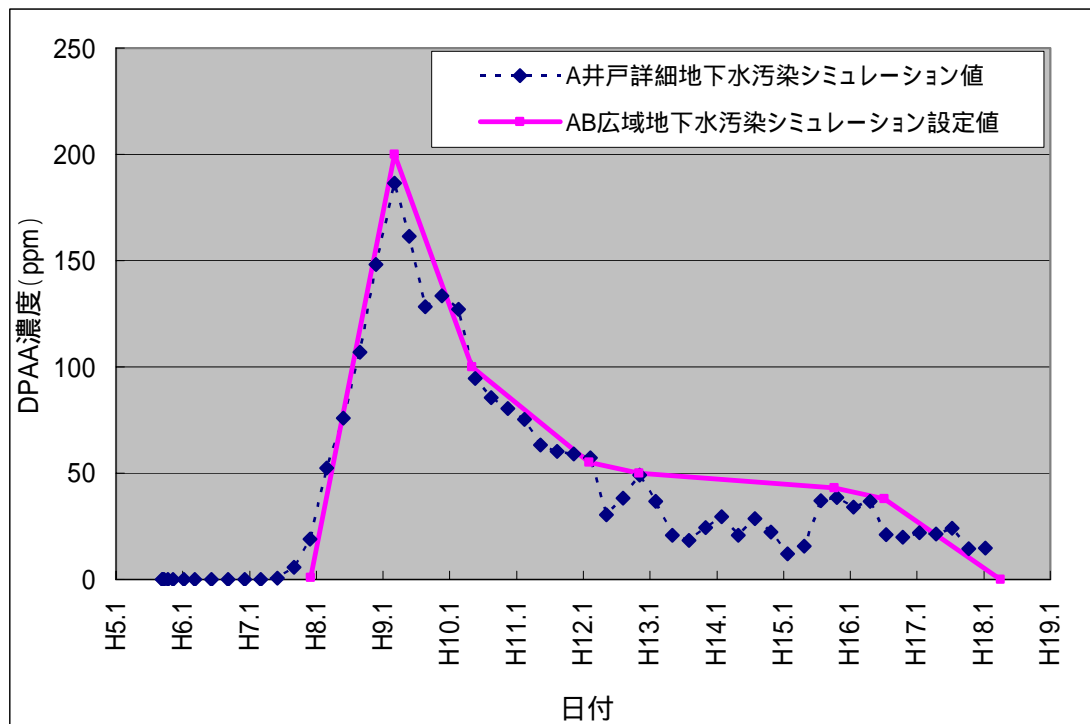
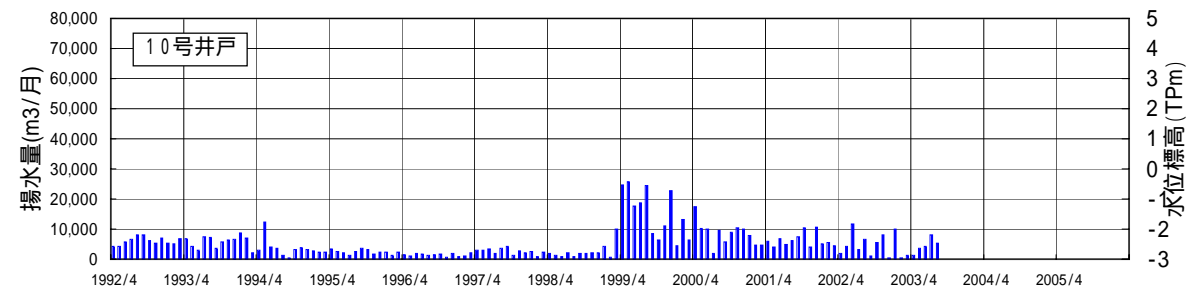
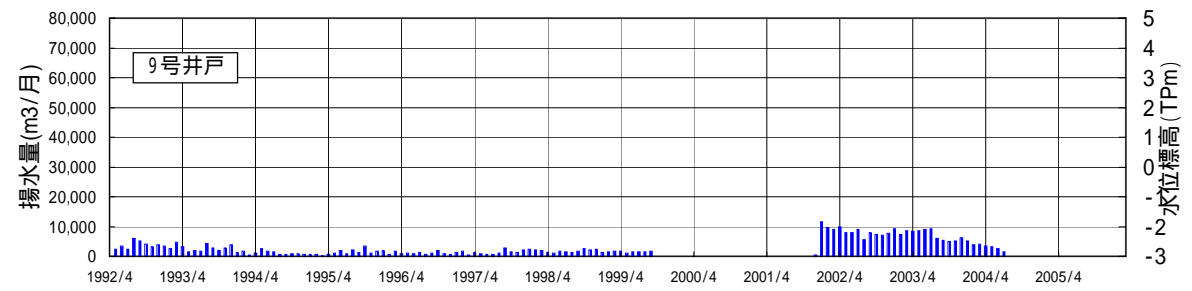
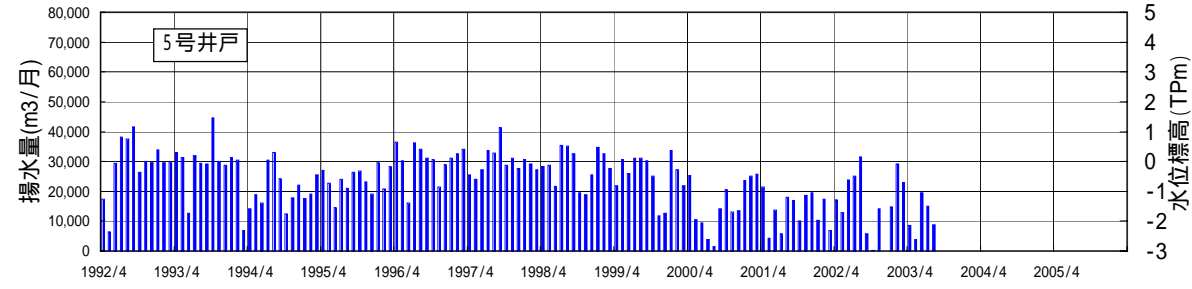
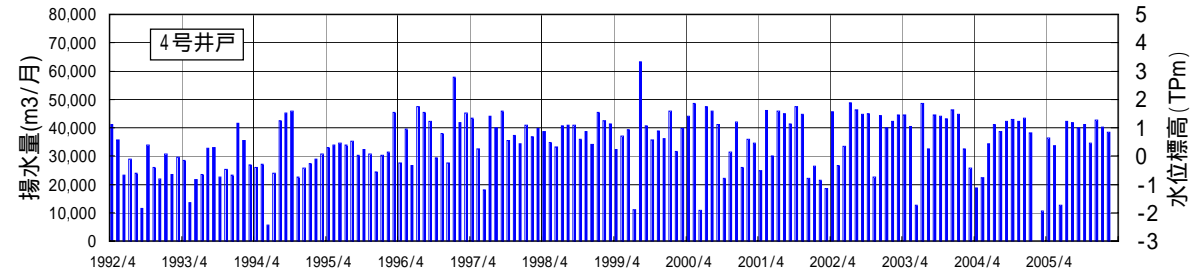


図 3.6.1 コンクリート様の塊の直下砂礫層の DPAA 濃度設定

図3.5.1 企業局揚水井戸の揚水量と常陸利根川河川水位

企業局揚水井戸の揚水量



常陸利根川河川水位

